

第4章 ダム事業実施区域及びその周囲の概況

ダム事業実施区域及びその周囲の自然的状況については、図3 - 2に示す図面範囲(以下「概況把握区域」といいます。)で、その概況は以下のとおりです。

第1節 自然的状況

1 気象の状況

平取町には地域気象観測所がないため、事業実施区域周辺に位置する日高地域気象観測所(沙流郡日高町299 - 1、海拔280m)及び新和地域気象観測所(新冠郡新冠町新和156、海拔60m)における近年の気象観測結果(表4 - 1)から述べると次のとおりです。

1) 気 温

月平均気温の年平均値は、日高が5.9 、新和が6.5 、最高は、両観測所とも8月で、日高が24.9 、新和が25.3 、最低は、両観測所とも1月で、日高が - 13.6 、新和が - 14.6 です。

2) 降水量

年降水量は、日高が1312.8mm、新和が1282.5mmです。

3) 風 速

年平均風速は、日高が1.3m / s、新和が1.2m / sです。

表 4 - 1 気象一覧表

項 目	観測所	単 位	月												平 均 ま た 合 計	統 計 年
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
平均気温	日 高 新 和		-8.0	-7.3	-2.8	4.2	10.4	15.1	19.0	20.1	15.0	8.2	1.5	-4.5	5.9	1979 年 ～ 2000 年
			-7.4	-6.6	-1.6	4.9	10.6	15.0	19.0	20.5	15.7	8.9	2.2	-3.7	6.5	
日最高の 平均気温	日 高 新 和		-3.0	-2.1	1.9	9.8	16.3	20.6	23.8	24.9	20.3	13.8	5.8	-0.3	11.0	
			-0.7	0.1	3.8	11.1	16.8	20.3	23.5	25.3	21.5	15.6	8.0	1.8	12.3	
日最低の 平均気温	日 高 新 和		-13.6	-13.4	-8.2	-1.3	4.4	10.0	15.0	15.9	10.3	3.0	-2.8	-9.0	0.9	
			-14.6	-14.4	-7.8	-1.6	4.0	9.9	15.2	16.4	10.3	2.6	-3.5	-9.5	0.6	
降 水 量	日 高 新 和	mm	61.3	41.1	77.0	98.9	114.4	68.3	133.9	199.7	171.5	141.5	135.0	82.7	1,312.8	
			49.1	33.6	72.9	103.5	126.7	85.7	137.5	205.1	154.8	117.0	113.5	73.9	1,282.5	
平均風速	日 高 新 和	m/s	1.0	1.2	1.3	1.4	1.5	1.4	1.3	1.2	1.2	1.1	1.2	1.1	1.3	
			0.9	1.1	1.4	1.6	1.6	1.4	1.3	1.2	1.0	1.0	1.1	0.9	1.2	

気象庁 気象業務支援センター電子閲覧室資料より



- 1 日本海側気候区
- 2 太平洋側西部気候区
- 3 太平洋側東部気候区
- 4 オホーツク海側気候区

日本気象協会「北海道の気候」(1964 年)

図 4 - 1 気候地域区分図

2 水象、水質の状況

概況把握区域にある主要な河川としては、表4 - 2に示すとおり、沙流川、額平川等があります。平取ダムサイト地点の水象は表4 - 3、水質は表4 - 4に示すとおりです。

沙流川（額平川合流点より下流）は、水質汚濁に係る環境基準B類型に、額平川は同環境基準A類型に指定されています。（昭和47年4月1日 道告示第1093号）

表4 - 2 主要河川

水系名	河川名	流域面積(km ²)	流路延長(km)
沙流川	沙流川	1350.0	103.8
沙流川	額平川	384.3	58.7
沙流川	貫気別川	70.0	23.5
沙流川	宿主別川	64.3	18.6

北海道土木協会「北海道河川一覧」(平成7年)

表4 - 3 平取ダムサイト地点の水象

項目 年	最大流量 (m ³ /s)	豊水流量 (m ³ /s)	平水流量 (m ³ /s)	低水流量 (m ³ /s)	渇水流量 (m ³ /s)	最小流量 (m ³ /s)	平均流量 (m ³ /s)	年総流量 (×10 ⁶ m ³)
平成5年	-	-	-	-	-	-	-	-
6	206.70	10.81	5.49	3.52	2.07	1.80	8.90	280.75
7	181.78	15.31	9.18	4.65	1.72	0.48	11.90	375.23
8	119.28	10.41	5.98	4.17	1.36	0.55	9.01	284.85
9	314.54	15.39	8.62	4.26	1.58	0.55	12.66	399.23
10	218.40	12.11	6.34	4.45	1.79	0.88	10.19	321.23
11	188.54	10.99	7.26	3.53	1.73	0.58	10.1	318.51
12	194.43	13.24	5.73	3.01	1.49	0.59	12.17	384.83
13	328.83	14.08	6.80	3.40	1.75	0.91	10.80	340.67
14	127.15	10.43	5.95	3.32	2.28	1.66	9.07	285.88
最大	328.83	15.39	9.18	4.65	2.28	1.80	12.66	399.23
最小	119.28	10.41	5.49	3.01	1.36	0.48	8.90	280.75
平均	208.85	12.53	6.82	3.81	1.75	0.89	10.53	332.35

注) 平成5年は欠測のため不記載とした。最大、最小、平均は同年を除いて算出した。

表4 - 4 平取ダムサイト地点の水質（平成14年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	最大	最小	平均
pH	7.9	7.8	8.1	8.0	8.0	8.2	7.9	7.6	7.7	7.8	7.8	8.0	8.1	7.6	7.9
DO	10.7	11.0	10.9	10.1	9.7	9.6	11.1	13.8	15.0	14.8	14.8	14.7	15.0	9.6	12.2
BOD	1.0	<0.5	0.6	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	1.0	<0.5	0.6
SS	100	9	3	5	3	2	2	3	3	1	1	1	100	1	11
大腸菌群数	33	33	330	490	240	110	490	280	790	7.8	2	23	790	2	240

3 土壌及び地盤の状況

1)土壌の状況

概況把握区域の土壌は、未熟土、褐色森林土、褐色低地土に大別されます。

概況把握区域の大半を占める山地には褐色森林土IIと褐色森林土II - 粗粒火山放出物未熟土壌が広く覆っており、河川周辺の丘陵地には粗粒火山放出物未熟土壌が比較的広く分布し、また河川沿いには粗粒褐色低地土壌が狭長に分布しています。

2)地盤の状況

概況把握区域の地盤は、大部分が先白亜紀あるいは白亜紀の岩盤となっています。

3)土壌汚染の状況

概況把握区域には、農用地土壌汚染対策地域並びに土壌汚染の発生源となる鉱山及び鉱山跡地はありません。

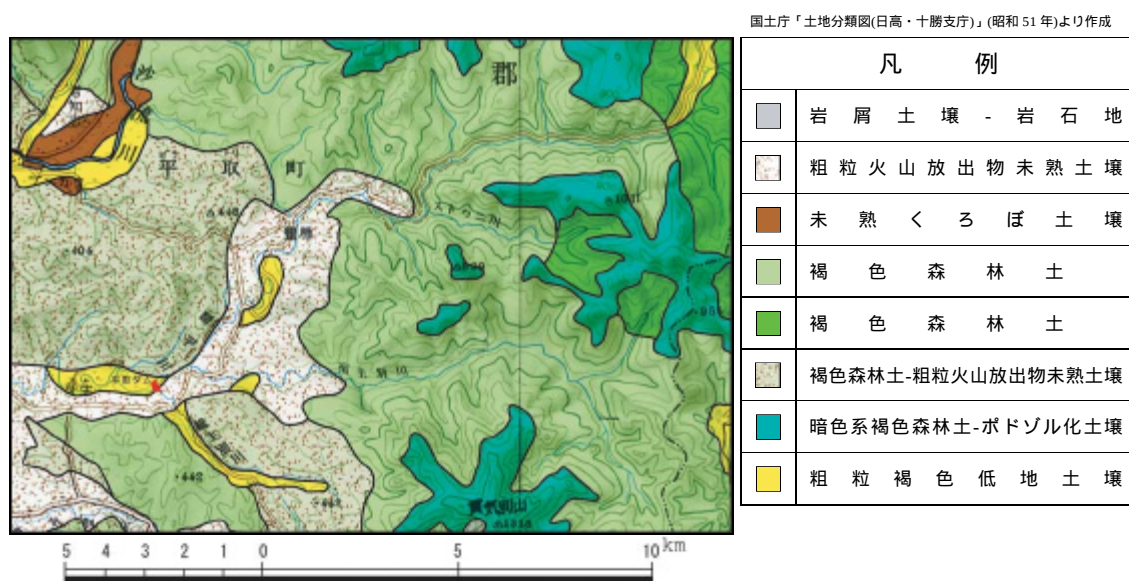


図4 - 2 土壌図

4 地形及び地質の状況

1) 地形の状況

概況把握区域の地形は、表4 - 3に示すとおり、山地、丘陵地、台地に大別されます。

山地は、概況把握区域の東部に日高山地が分布しており、大～小起伏山地により構成され、概況把握区域の大半を占めています。

貫気別川及び額平川とそれらの近傍には、大起伏丘陵地、中～下位の砂礫台地並びに扇状地性低地が、また沙流川沿いには砂礫台地が、いずれも小規模分布しています。

なお、概況把握区域には、天然記念物等の自然環境の保全を目的とした法令により指定されたもの及び学術上又は希少性の観点から重要と認められる地形は分布していません。

表4 - 5 地形分類

大 区 分	中 区 分	小 区 分
山 地	日 高 山 地	大 起 伏 山 地
		中 起 伏 山 地
	門 別 山 地	小 起 伏 山 地
丘 陵 地	貫 気 別 丘 陵	大 起 伏 丘 陵 地
台 地	芽 生 台 地	砂 礫 台 地 (中 位)
		砂 礫 台 地 (下 位)
	振 内 台 地	砂 礫 台 地 (下 位)

国土庁「土地分類図(日高・十勝支庁)」(昭和51年)

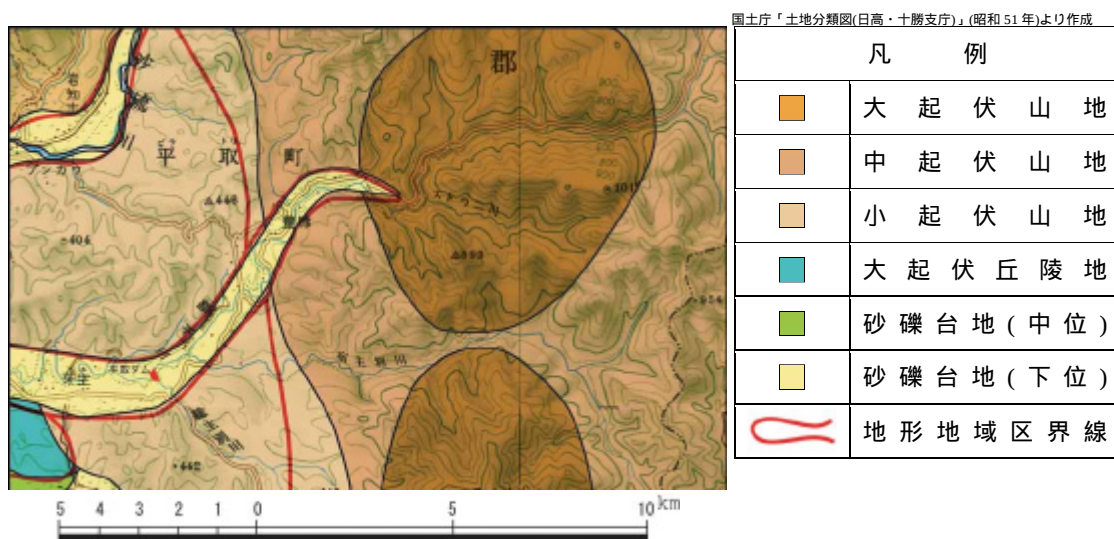


図4 - 3 地形分類図

2)地質の状況

概況把握区域の地質は、表4 - 6に示すとおりです。

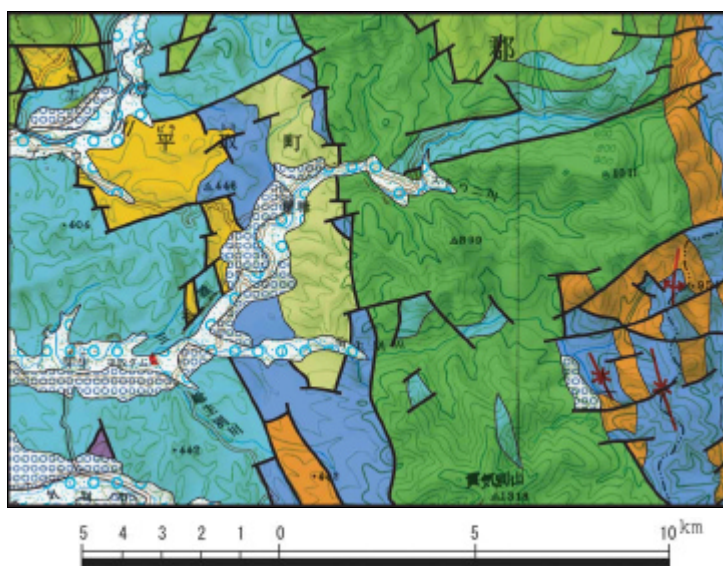
概況把握区域の東部山稜部にみられる大起伏山地は、泥岩と所々に出現する砂岩・礫岩から構成され、中央部の中起伏山地は、主として輝緑岩質岩石からなっています。西部の小起伏山地は、泥岩や粘板岩から構成されています。また、各河川沿いには、礫・砂や礫・砂・粘土からなる未固結堆積物が分布しています。

なお、概況把握区域には、天然記念物等の自然環境の保全を目的とした法令により指定されたもの及び学術上又は希少性の観点から重要と認められる地質は分布していません。

表4 - 6 地質区分

地 質 時 代	区 分	地 質	備 考
沖 積 世	未 固 結 堆 積 物	礫・砂・粘土	各河川の氾濫源堆積物
沖積世～洪積世		礫・砂	沖積～洪積段丘堆積物
第 三 紀	固 半 結 固 堆 積 物 }	砂 岩	-
		砂 岩 ・ 礫 岩	-
		泥 岩	-
		粘 板 岩	-
		砂岩・泥岩互層	-
先白亜紀	岩 火 山 性	輝緑岩質岩石	先白亜紀日高累層群
	岩 深 類 成	蛇紋岩質岩石	先白亜紀日高累層群

国土庁「土地分類図(日高・十勝支庁)」(昭和51年)



国土庁「土地分類図(日高・十勝支庁)」(昭和51年)より作成

凡 例	
	礫・砂・粘土
	礫・砂
	砂 岩
	泥 岩
	砂 岩・礫 岩
	泥 岩
	粘 板 岩
	砂 岩・泥 岩 互 層
	輝 緑 岩 質 岩 石
	蛇 紋 岩 質 岩 石
	地 層 境 界 線
	背 斜 軸
	向 斜 軸
	断 層

図4 - 4 表層地質図

5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

(1) 動植物の生息又は生育の状況

1) 概況把握区域及びその周辺の一般的な動植物の生息又は生育の状況

「第2回自然環境保全基礎調査（環境庁）」及び「沙流川総合開発事業(二風谷ダム・平取ダム)環境影響評価報告書(北海道開発局、昭和57年)」によると以下のとおりです。

ア 哺乳類

中・大型哺乳類は、ヒグマ、キタキツネ、エゾクロテン、エゾノウサギ、エゾシカ、シマリス、エゾリスなどの10種であり、確認件数としてはキタキツネが多い。

小型哺乳類は、ネズミ類がエゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、カラフトアカネズミ、ヒメネズミ及びドブネズミの5種、トガリネズミ類がエゾトガリネズミ及びオオアシトガリネズミの2種です。

イ 鳥 類

概況把握区域には広大な樹林が分布することから、このような 生息環境を反映してキジバト、ツツドリ、キツツキ類、ヒタキ類、カラ類などの森林性鳥類が多く確認されています。

また、河川性鳥類としては、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワガラスが確認されたが、種類数、個体数とも少ないです。

ウ 両生類・は虫類

全道に広くみられるニホンアマガエル、シマヘビなどが生息しています。

エ 魚 類

生息が確認された魚類は、エゾウグイ、フクドジョウ、アメマス、サクラマス及びハナカジカです。確認された魚類は、いずれも北海道の河川に比較的広く分布している種です。

オ 昆虫類

この地域は、日高山系に近く、植生が変化に富むため、農牧地を除いて、多くの種が確認されてます。これらの大部分は、道央以北及び以東に広く分布する普通種であったが、ウラナミアカシジミ、ダイコクコガネといった道南系の種も認められます。

カ 植 物

北方系の植物のほか、ミズナラ・コナラ林の構成要素である温帯系の植物も認められてます。

2)学術上又は希少性の観点から重要な動物

概況把握区域では、重要な動物として、表4 - 7に示す動物が確認されています。

なお、概況把握区域には、注目すべき生息地は確認されていません。

表4 - 7 学術上又は希少性の観点から重要な動物

(その1)

区 分	種 名(和名)	法指定等の状況(重要な種の選定基準)
哺乳類	カラフトアカネズミ	希少種：レッドデータブック「動物」 留意種：北海道レッドデータブック
	エゾクロテン(クロテン)	主要野生動物：自然環境保全調査 情報不足：レッドリスト
	エゾオコジョ(オコジョ)	主要野生動物等：自然環境保全調査 希少種：レッドデータブック「動物」 準絶滅危惧：レッドリスト 絶滅危急種：北海道レッドデータブック
鳥 類	エゾライチョウ	情報不足：レッドリスト 希少種：北海道レッドデータブック
	オオジシギ	主要野生動物：自然環境保全調査 希少種：レッドデータブック「動物」 準絶滅危惧：レッドリスト 希少種：北海道レッドデータブック
	コノハズク	主要野生動物：自然環境保全調査
	アカヒョウビン	希少種：北海道レッドデータブック
	クマゲラ	天然記念物：文化財保護法 主要野生動物：自然環境保全調査 稀少種：第2回自然環境保全基礎調査 危急種：レッドデータブック「動物」 絶滅危惧Ⅱ類：レッドリスト 絶滅危急種：北海道レッドデータブック
魚 類	エゾウグイ	留意種：北海道レッドデータブック
	サクラマス(ヤマメ)	留意種：北海道レッドデータブック
	ハナカジカ	留意種：北海道レッドデータブック

(その2)

区 分	種 名(和名)	法指定等の状況(重要な種の選定基準)
昆 虫 類	ミヤマカワトンボ	特定昆虫類：第2回自然環境保全基礎調査
	オオルリオサムシ	主要野生動物等：自然環境保全調査 特定昆虫類：第2回自然環境保全基礎調査
	アイヌキンオサムシ	すぐれた自然：自然環境保全調査 特定昆虫類：第2回自然環境保全基礎調査
	ダイコクコガネ	特定昆虫類：第2回自然環境保全基礎調査 準絶滅危惧：レッドリスト 希少種：北海道レッドデータブック
	エカシマルトゲムシ	希少種：北海道レッドデータブック
	ケマダラカミキリ	希少種：レッドデータブック「動物」 準絶滅危惧：レッドリスト 留意種：北海道レッドデータブック
	カラフトタカネキマダラセセリ	すぐれた自然：自然環境保全調査 特定昆虫類：第2回自然環境保全基礎調査
	ギンイチモンジセセリ	準絶滅危惧：レッドリスト 留意種：北海道レッドデータブック
	ヒメギフチョウ	主要野生動物等：自然環境保全調査 指標昆虫類：第2回自然環境保全基礎調査 希少種：レッドデータブック「動物」 準絶滅危惧：レッドリスト 希少種：北海道レッドデータブック
	ヒメウスバシロチョウ	特定昆虫類：第2回自然環境保全基礎調査
	ヒメシロチョウ	絶滅危惧Ⅱ類：レッドリスト 留意種：北海道レッドデータブック
	ウラナミアカシジミ	すぐれた自然：自然環境保全調査
	アサマシジミ	すぐれた自然：自然環境保全調査 絶滅危惧Ⅱ類：レッドリスト 希少種：北海道レッドデータブック
	ゴマシジミ	希少種：レッドデータブック「動物」 絶滅危惧Ⅱ類：レッドリスト 留意種：北海道レッドデータブック
	ジョウザンシジミ	すぐれた自然：自然環境保全調査 特定昆虫類：第2回自然環境保全基礎調査
	ヒョウモンチョウ	準絶滅危惧：レッドリスト 留意種：北海道レッドデータブック
	カラフトヒョウモン	学識経験者による選定種
	ツマジロウラジャノメ	すぐれた自然：自然環境保全調査 特定昆虫類：第2回自然環境保全基礎調査 希少種：北海道レッドデータブック

注) 法指定等の状況

- 1．文化財保護法；文化財保護法（昭和25年法律第214号）
- 2．自然環境保全調査；自然環境保全調査（環境庁、1973年）
- 3．第2回自然環境保全基礎調査；第2回自然環境保全基礎調査（環境庁、1978年）
- 4．レッドデータブック「動物」；日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - （環境庁、1991年）
- 5．レッドリスト；両生類・爬虫類レッドリスト（環境庁、1997年） 哺乳類レッドリスト（環境庁、1998年） 鳥類レッドリスト（環境庁、1998年） 汽水・淡水魚類レッドリスト（環境庁、1999年） 昆虫類（環境庁、2000年）による選定種
- 6．北海道レッドデータブック；北海道の希少野生生物（北海道、2001年）

3)学術上又は希少性の観点から重要な植物

概況把握区域では、重要な植物として、表4 - 8に示す植物が確認されています。

なお、概況把握区域で重要な群落は確認されていません。

表4 - 8 学術上又は希少性の観点から重要な植物

区 分	種 名(和名)	法指定等の状況(重要な種の選定基準)
維管束植物	エゾヒメクラマゴケ	貴重植物：自然環境保全調査
	エゾノヒモカズラ	絶滅危惧Ⅱ類：レッドデータブック
	ヒメドクサ	貴重植物：自然環境保全調査 絶滅危惧ⅠB類：レッドデータブック 絶滅危急種：北海道レッドデータブック
	ミヤマビャクシン	絶滅危急種：北海道レッドデータブック
	ノダイオウ	絶滅危惧Ⅱ類：レッドデータブック
	エゾオオヤマハコベ	貴重植物：自然環境保全調査
	アポイカラマツ	希少種：北海道レッドデータブック
	オクエゾサイシン	希少種：北海道レッドデータブック
	ベニバナヤマシャクヤク	危急種：(旧)レッドデータブック 絶滅危惧ⅠB類：レッドデータブック 絶滅危惧種：北海道レッドデータブック
	エゾミセバヤ	貴重植物：自然環境保全調査
	ヤマネコノメソウ	希少種：北海道レッドデータブック
	エゾノチャルメルソウ	希少種：北海道レッドデータブック
	ヤマハナソウ	貴重植物：自然環境保全調査
	エゾトウウチソウ	絶滅危惧ⅠA類：レッドデータブック 希少種：北海道レッドデータブック
	ホザキシモツケ	絶滅危惧Ⅱ類：レッドデータブック
	ミツデカエデ	学識経験者による選定種
	クロビイタヤ	貴重植物：自然環境保全調査 絶滅危惧ⅠB類：レッドデータブック
	ホソバトウキ	絶滅危惧Ⅱ類：レッドデータブック
	エゾムラサキツツジ	貴重植物：自然環境保全調査 絶滅危惧Ⅱ類：レッドデータブック
	ユキワリソウ	絶滅危急種：北海道レッドデータブック
	ミヤマキヌタソウ	貴重植物：自然環境保全調査
	エゾハナシノブ	貴重植物：自然環境保全調査 絶滅危惧Ⅱ類：レッドデータブック 希少種：北海道レッドデータブック
	モイワシャジン	貴重植物：自然環境保全調査
	チャボゼキショウ	希少種：北海道レッドデータブック
	ヒロハトンボソウ	絶滅危惧ⅠB類：レッドデータブック

注) 法指定等の状況

- 1 . 自然環境保全調査；自然環境保全調査（環境庁、1973年）
- 2 . (旧) レッドデータブック；我が国における保護上重要な植物種の現状（我が国における保護上重要な植物種及び植物群落に関する研究委員会、1989年）
- 3 . レッドデータブック「植物」；改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - （環境庁、2000年）
- 4 . 北海道レッドデータブック；北海道の希少野生生物（北海道、2001年）

(2) 植生の状況

概況把握区域における現存植生の分布状況は、「第3回自然環境保全基礎調査(植生調査の現存植生図)(環境庁)」によると、ブナクラス域自然植生の下部針広混交林とエゾイタヤ - シナノキ群落、植林地、耕作地植生の落葉針葉樹林が広い地域を覆っています。

主な植生は、表4 - 9に示すとおりです。

表4 - 9 主な植生の状況

区 分	主 な 植 生 の 状 況
山 地	エゾイタヤ - シナノキ群落が広く覆い、下部針広混交林と落葉針葉樹植林も比較的広く分布している。
丘 陵 地	落葉針葉樹植林が広く分布し、所々にエゾイタヤ - シナノキ群落及びトドマツ植林や伐跡群落がみられる。
台 地	畑地や牧草地が大部分を占めている。
河川沿いの低地	ヤナギ低木群落が所々に分布している。

(3) 生態系の状況

1) 概況把握区域の概況(自然環境の類型区分)

概況把握区域の自然環境類型については、現存植生図及び地形図などを基に以下の4区分に分類しました。各区分の構成要素などは、既存資料により、以下のとおりとしました。

ア 山地の樹林地

生息・生育の基盤は、日高山地及び門別山地を構成する山地に分布する樹林地です。

主な植物相は、エゾイタヤ - シナノキ林、下部針広混交林、落葉針葉樹植林などを構成する植物です。

主な動物相は、ヒグマ、エゾシカ、キツツキ類、ヒタキ類などです。

イ 丘陵地の樹林地

生息・生育の基盤は、貫気別丘陵の丘陵地に分布する樹林地です。

主な植物相は、落葉針葉樹植林、エゾイタヤ - シナノキ林、トドマツ植林などの構成種です。

主な動物相は、エゾシカ、エゾリス、ワシタカ類、アオジなどです。

ウ 台地の農耕地

生息・生育の基盤は、概況把握区域に広く分布する台地の畑地や牧草地などの農耕地です。

主な植物相は、農耕地の米、トマト、ばれいしょ、ながいも、牧草などです。

主な動物相は、農耕地では、キタキツネ、ヒバリ、ノビタキ、ヒナバタなどです。

エ 河川及びその周辺の灌木林

生息・生育の基盤は、概況把握区域を流れる額平川、宿主別川とそれらの支流周辺の灌木林です。

主な植物相は、ヤナギ低木林の構成種です。

主な動物相は、エゾヤチネズミ、ノスリ、ハクセキレイなどです。

2)地域を特徴づける生態系の抽出及び注目種・群集の抽出

「地域を特徴づける生態系」として、山地の樹林地における生態系を抽出しました。この「地域を特徴づける生態系」において、上位性、典型性、特殊性、移動性の視点から注目される動植物の種又は生物群集を既存資料から想定すると表4 - 10に示すとおりです。また、「注目種・群集」の抽出基準を表4 - 11に示します。

表4 - 10 地域を特徴づける生態系における注目種・群集

類 型 区 分	注 目 種 ・ 群 集	
山地の樹林地	上位性	ハイタカ、キタキツネなど
	典型性	ミズナラ、カラマツなど
	特殊性	-
	移動性	サクラマス(ヤマベ)

表4 - 11 注目種・群集における抽出基準

抽出基準	注 目 種 ・ 群 集 の 抽 出 視 点
上 位 性	類型化する「地域を特徴づける生態系」の食物連鎖の上位に位置する動物を抽出する。植物は生態系における生産者の役割を果たすため、上位性の対象としない。
典 型 性	類型化する「地域を特徴づける生態系」に優占する植物種または植物群落、それらを摂食する動物(一次消費者程度)、個体数が多い動物等(哺乳類、鳥類、両生類、は虫類、昆虫類、魚類等)を抽出する。
特 殊 性	類型化する「地域を特徴づける生態系」において、相対的に分布範囲が狭い又は質的に特殊な環境に生息・生育する動植物種を抽出する。
移 動 性	類型化する「地域を特徴づける生態系」において、広い行動圏あるいは移動範囲の広い動物を移動性の注目種等として抽出する。

6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

(1) 景観の状況

1) 地域の景観特性

事業実施区域及びその周辺は、大部分が山地で構成され、南西の一部に丘陵地が分布し、山地を沙流川、額平川、宿主別川などが開析しています。

土地利用としては、山地及び樹林地で、一部植林地として利用されており、川沿いの台地や谷底は農耕地として利用されています。

事業実施区域及びその周辺の景観は、大部分は樹林景観で、一部は農村景観で構成されています。

2) 主要な眺望点の分布状況

事業実施区域及びその周辺には、主要な眺望点として不特定多数の人が利用するような展望台は分布していません。

3) 景観資源の分布状況

事業実施区域及びその周辺には、「第3回自然環境保全基礎調査(環境庁)」において自然景観に選定されたものは分布していません。

(2)人と自然との触れ合いの活動の状況

事業実施区域及びその周辺においては、「スズラン群生地」が位置しています。同群生地は、普段は立ち入りが制限され、保護されており、毎年6月上旬にはスズランの鑑賞会が開催されています。しかし、一時的イベントの場として利用されているため、人と自然との触れ合いの活動の場には該当しません。